

【事業実績】

安曇野には公立・私立を含めた美術館・博物館が20館以上あり、地域の歴史・文化・芸術等に触れる多くの場を提供している。本事業は、安曇野に点在する美術館・博物館が連携することで、地域文化振興の核としての役割を果たすこと、また安曇野としての一体感の醸成に寄与することを目的として実施した。

区分(1)-イ 少子化・子育て支援に対応した取組や未来を担う人材育成にかかる取組

(ア) 学校・出前ミュージアム

各施設が収蔵する作品を市内の小中学校で展示し、児童生徒が本物の美術作品や歴史資料等に親しみ、作品解説を通して資料を学ぶ機会を提供した。

○豊科北中学校 10月6日(金)～10月24日(火)

【対象】3学年 125名

【講師】6館の学芸員等

【内容】学校で作品を展示。館を紹介するパンフレットを作成。

○豊科南中学校 10月18日(水)(対象:1学年122名)

【対象】1学年 122名

【講師】6館の学芸員等、作家 鈴木希果、ガラス工房 関川葵

【内容】学校で作品を展示し、ギャラリートークを実施。

○豊科東小学校 11月28日(火)

【対象】1～6学年 178名

【講師】8館の学芸員等

【内容】学校で作品を展示し、ギャラリートークを実施。

○三郷中学校 11月30日(木)

【対象】2学年 166名

【講師】5館の学芸員等、丸山晚霞記念館

【内容】学校で作品を展示し、対話型鑑賞を実施。

○穂高幼稚園 12月18日(月)

【対象】全園児 77名

【講師】OZ-尾頭-山口佳祐

【内容】アーティストによるパフォーマンス、ワークショップを実施。

○穂高東中学校 1月18日(木)

【対象】1学年 153名

【講師】10館の学芸員等

【内容】学校で作品を展示し、対話型鑑賞を実施。

【感想】

とても楽しく生徒たちとトークすることができた。生徒たちの反応が真剣で、資料の持つ力・価値が確実に伝わっていることに改めて感動した。「あづみの学校ミュージアム」は大変有意義な企画であることを実感した。学社融合、協働のとてもいい事業。館の存在を知るレベルから、生徒たちの探究心を刺激するレベル、そして館を利活用するレベルと少しずつバージョンアップしていけばいい。生徒の学びの深まりを促す事業にじっくり育てていけばいいと思う。そのためにも、トークの時間や自由見学の時間をしっかり確保することが必要。待っているのではなく出撃型の館とすれば、大賛成な事業なので、協力を惜しまない。



作家によるトーク



学芸員による歴史資料のトーク



中学生が作成したパンフレット

(イ) 対話型鑑賞研修会

【内容】「視覚教材(美術作品など)をとおした対話鑑賞教育について
美術鑑賞のレクチャー及び豊科北中3学年との対話鑑賞実践

【期日・場所】10月11日(水) 豊科北中学校

【講師】三澤一実教授(武蔵野美術大学)

【参加者】市内及び近隣市町村の美術館博物館等の職員・学芸員、信州大学人文
学部学生、小中学校教諭図工美術研究会、ミュージアムサポーター
計22名

【感想】とても楽しい研修会となりました。私のようにかえって絵に関して全く知識のない方がむしろ良かったのかもしれませんが、自分自身が見方、考え方、感じ方の多様性を子どもたちから学んだし、そうしていくことが互いに学びを深めるんだということを改めて体験を通して実感できました。そして、先生のお話と自分の体験とがあわさり、このことを博物館にも生かしていこうと強く思いました。体験型博物館・美術館を目指していきましょう！



対話型鑑賞

(ウ) 作品修復技術研修会

- 【内容】「美術作品の保存修復について」スライドトークによる座学及び道具を介したデモンストレーション
- 【期日・場所】12月13日(水) 豊科近代美術館
- 【講師】土師広氏(土師絵画工房)
- 【参加者】市内及び近隣市町村の美術館博物館等の職員・学芸員、ミュージアムサポーター 計19名
- 【感想】今回の研修は私にとってやや専門的な内容でしたが、参加者の様子を見てみると、日常の業務に必要なことが多く、大きな学びになったのではないのでしょうか。後半の道具の紹介や実際の作業工程なども興味深かったです。「文化財保存の重要性がなかなか認知されない、予算化されない」というのは、いつも思うのですが、大きな課題です。



講師によるレクチャー

区分(1)-エ 社会包摂(孤立・孤独対策を含む。)や多文化共生を促進する取組

(ア) ギャラリートークリレー

- 【内容】特定期間に複数館の職員がギャラリートークを行い、相互に他館を紹介した。
- 【期間】10月21日(土)～11月5日(日)
- 【参加者・実施回数】美術館・博物館15館、一般1,281人、418回
- 【感想】このような企画は来館されたお客様からもご好評ですので、難しいかと思いますがもっと市外へ(県外はともかく)、今とは違うPRができる仕組みがあればより良いものになるように思いました。

(イ) 信州大学連携

- 【内容】博物館実習生が館を訪問し、学芸員から運営、展示等についてレクチャーを受け、意見交換会を行った。
- 【期日】1月7日(日) 碌山美術館、安曇野高橋節郎記念美術館、豊科近代美術館
- 【参加者】人文学部博物館実習生14名
- ・美術館資料の調査・研究・展示
- 【内容】「資料紹介 高田博厚」
- 【期間】11月15日(水)～2月5日(月) 信州大学図書館
- 【参加者】人文学部博物館実習履修生
- 【感想】信大連携では、1月7日の館訪問、意見交換を行い、美術館の状況や、若いアーティストの招聘について、その意義なども含めリアルなお話を伺うことができた。資料の観点から、市民が何を求めているか、担当者から筋の通ったお話が聞けた。



学生の博物館見学



大学内の展示

区分(1)-オ 持続可能な社会の実現(地球温暖化・地域の環境破壊等への対応を含む。)に向けた取組

(ア) オンラインギャラリートーク

- 【内容】美術館・博物館の学芸員等が作品・資料の解説を撮影し公開した。
- 【期間】1月30日 オンライン公開開始～(公開中)
- 【参加者】参加館13館、公開～3週間の動画再生回数1,537回
- 【感想】・撮影にあたっては、業者が明確に指示をくださったためにとっても取り組みやすかった。SNSをとおして宣伝していきたい。
・とても素敵な美術館ですね!是非、行ってみたいです。
- 【ホームページ】<https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/43/109611.html>



撮影風景